

北辰

TOKYO

岐阜県立多治見北高等学校同窓会

東京支部会報 創刊第1号



平成2年11月23日

発行人 鈴木 満

北高同窓生のみなさんお元気ですか。私は、北高1回生(昭和36年卒業)で、公正取引委員会に勤務している鈴木というものです。発起人を代表して東京支部設立の趣旨についてご説明します。

今年の初めごろ私のところに、多治見の大角先生から「東京にいる北高同窓生のあいだで集まりを持ちたいという動きがある。ひとつ1回生の君に“きもいり”をやっ

てもらえないか」と電話がありました。実は、昭和57年に東京周辺にいる北高卒業生の有志20名程度で懇親会を開いたことがあり、その際にも、この会合を発展させて将来は東京支部のような組織にしたいという動きがあり

ましたが、そのままになっていたという事情がありましたので、検討することをお約束しました。その後、前回の会合に参加した方などに相談しましたところ、「北高も創設以来すでに30年になり、東京地区の同窓生もかなりの数にのぼっている。この際、東京支部を設立して懇親の場を設ける必要がある。そうすれば後輩のためにもなる。」というのがみなさんの総意でした。

平成2年4月下旬に1回目の支部設立準備会合を開き、まず、支部名簿の作成について検討しました。3年前に30年記念事業の一環として作られた名簿をもとに、東京周辺に居る同窓生の名簿を作ることになりました。この大変な作業は7回生の石橋正文氏(横河電機勤務)が5月の連休をつ

ぶしてやってくれました。その結果、東京周辺に1100人もの同窓生がおられるということがわかりました。しかし、その後かなりの移動が予想されましたので、各期ごとに幹事を指名して名簿のチェックをお願いしました。移動が少ない期もありましたが、なかには7割程度移動している期もあり、このチェック作業は難航を極めました。

この支部名簿は、まだ十分とはいえませんが、11月23日の設立総会のときにお渡しできると思います。なお、会員名簿の表紙のデザインは、7回生の岩田実氏(彫刻家)にお願いしてあります。

5月下旬の2回目の会合では、1回生の石田昭

郎氏(ニューロマン勤務)が中心になって検討した資金計画などについて話し合われました。その結果、本部に資金援助を求めること、11月23日に設立総会とパーティを開き、本部からも出席してもらうことなどが決まりました。この件については、私が直接多治見に向き小芝同窓会長などをお願いしました。小芝会長ら同窓会本部関係者のご厚意により、支部設立準備金として20万円を支給していただけることになりました。また、設立総会には、小芝同窓会長、杉山校長先生などがご出席の予定です。

7月上旬の3回目の会合では、支部の運営方法などについて話し合われました。その結果、支部組織を活性化し、これを維持していくため、毎年、

多治見北高同窓会 東京支部設立の 趣旨について

発起人代表 鈴木 満



名簿と会報を作り、総会・懇親会を開催し、支部員の連絡のため事務局を置く方向で総会に諮ることが決まりました。事務局は、7回生の長谷川進氏（「ビジョン・プランニング」経営）が引き受けてくれる予定です。また、会報は、名称を「北辰 TOKYO」とし、毎年、北高に関するホットな情報や会員の北高訪問記などをお届けすることになっています。編集長は、7回生の梶田卓氏（モーターマガジン社勤務・前月刊オートバイ編集長）が引き受けてくれる予定です。

私は、短期間のうちにこのような「熱気」が生

豊かなる多治見の郷はいま……

大岳和好（13回生・北高教員）

現在、多治見北高等学校は、各学年とも9クラスで編成され、在籍生徒は1287名です。そのうち、男子は56%、女子は44%の比率です。また、生徒の出身地は多治見が52%、土岐市28%、瑞浪12%、笠原5%、その他東可児・恵那・中津川となっております。昭和33年の開校以来32年を経て、卒業生は今年の3月で10098名に達しております。

年を追うごとに学校周辺の環境も変わり、施設の増改築や学級増で学校も変わり、学区制で生徒の出身地域も変わりましたが、多治見北高の「自主・自律・自学」は脈々として現在につながり、修道院や永保寺と同じ様に変ることなく生徒のそばにあります。そして、卒業生の方々が築き、それぞれの分野で、今切り開いていらっしゃる道が北高の伝統になっていきます。創立30年の節目を過ぎた今、その伝統の継承と、新しい時代への前進とがこれからの課題です。変わらないものを保ちながら、新しいものを創り出してゆくことに

1990夏、北高を訪れて……

小原 伊（15回生・三菱銀行勤務）

90年7月。15年ぶりに北高にきた。暑い。あの頃と同じ油蟬の大合唱。正門横の駐車場が整備され、玄関前に立派な彫塑が飾られ、音楽室の修道院側に更衣室が出来、体育館脇の武道場、その横の木造校舎が何れも新築され、それらが囲む空地に庭木が配されている以外は、全体のレイアウト・

まれたのは、北高卒業生の間に懇親の場を持つという機運が醸成されていたためではないかと思っています。この「熱気」を支部全体のものにするため、みなさんのご協力をお願いします。

今後、この東京支部の設立が契機となって、各地に支部ができていくことと思います。これによって、北高同窓会がより活性化され、北高の「伝統」の重みが増すことを念願しています。

来る11月23日に四谷駅前の主婦会館で行う支部設立総会・懇親パーティーでお会いしましょう。

取り組み続けていきたいと思っています。

部活動では体育系16、文科系13に同好会2をくわえて31の部に多くの生徒が在籍し、活動しています。今年のインターハイには、軟式テニスの女子が2名、ボクシング部の男子2名の選手が出場しました。また、東海大会にはサッカー部、陸上部、水泳部が出場しました。文科系のほうでも音



楽部をはじめ将棋、ESS、演劇などの各々がそれぞれの大会で成果をあげております。

職員は68名ですが、そのなかに2、4、8、10、13、15、16、17、19、20回の各回期の卒業生10名がおり、母校で後輩たちを教えております。中には北高の恩師とともに勤務している者もおります。北高30年の歩みの現れのひとつです。

雰囲気とも全く昔のままである。

北辰祭で「夢の中へ」に合わせ「春駒」を踊った盆踊り、ソフトボール大会で逆転サヨナラ満塁ホームランを打たれ負けたこと、マラソン大会でミカンや菓子をナップザック一杯に詰込み、道中食べ乍ら走っていた連中のこと、かぐや姫や拓郎や陽水を口ずさみ乍らあの娘のことやら将来を夢みて修道院や虎溪山を散策したこと、それからそれから吉おじさんのこと……。

今度の東京同窓会では皆と何から話そうか。